

Yokohama Lacquer News

—神奈川県立歴史博物館—

特別展 近代輸出漆器の ダイナミズム

—金子皓彦コレクションの世界—

The Dynamism of Lacquerware for Export in Modern Japan
The World of the Kaneko Teruhiko Collection



- ★収録内容★
- 1頁 巻頭記事
- 近代漆器
- 横浜へ帰還
- 鑑賞のコツ
- この人
- 金子皓彦氏—
- 2頁 会場案内①
- はしまり
- 1章—
- ・オススメ!
- ・出品目録
- 3頁 会場案内②
- 2章〜3章
- ・オススメ!
- ・出品目録
- 4頁 特集
- ワザを見る
- ワザを知る
- 5頁 出品目録
- ・特集
- ワザを見る
- ワザを知る
- 6頁 会場案内③
- 金子コレ〜
- ・オススメ!
- ・出品目録
- 7頁 漆はど〜!?
- 古代から
- 現代まで
- 大搜索
- @ケンパク
- ・出品目録
- 8頁 横浜散策の
- 〜案内
- 担当者のおもひで

—Yokohama Lacquer News / 令和6年4月発行・神奈川県立歴史博物館 不許複製—

巻頭記事 近代漆器 横浜へ帰還

かつて横浜は漆器の産地だった——

こう記すと、驚かれる方も多いことでしょう。しかし、これは事実です。ただ、時代は限定されます。明治から昭和戦前期、すなわち近代がその盛期でした。なぜ、横浜が漆器の産地となり、またいまでは産地ではなくなったのか。そして、なぜその記憶が薄らいでいるのか。本展覧会は、この謎へ挑戦するための企画です。

横浜が漆器の産地になった理由、それは近代の輸出産品として、漆器が重要なアイテムだったからです。安政6年（一八五九）の横浜開港の折、静岡の漆器商らはいち早く横浜に進出しました。万国博覧会などで日本の漆器は西洋から高く評価され、徐々に輸出量は増していきま

す。江戸時代までに発展していた日本各地の漆器産地から、横浜へ輸送されました。海外からの注文に応えるため、新しいデザインやかたちが生まれきました。これが、近代漆器の大きな魅力です。

このような注文に素早く応えようとすると、貿易港から遠く離れた産地での制作は不利でした。そこで商人や職人らは、横浜に集いはじめました。結果、横浜は近代漆器への対応のため、産地化したのです。この近代横浜特有といつていい漆器が、芝山細工を伴う一群です。ポスターに使用された作品がまさにその典型です。貝や骨などを用いて立体感をあらわした、力強い表現です。

「これが漆器なの?」と驚かれる方が多いと思います。海外からすると、日本の木工芸全般が「漆器」と括られる傾向があったようです。ですから、箱根などで有名な寄木細工もまた、「漆器」という区分で海外に輸出されました。海外輸出用の作品だったため、それらはほとんど国内には残っていません。このたび、金子皓彦氏のご厚意により、横浜正金銀行旧本店本館を活用する当館で展示することが叶いました。久方ぶりの里帰り。輸出工芸の本拠地で、数多くの作品のダイナミックな魅力を、体感してください。

鑑賞のコツ

まるで基礎知識もなく、展覧会に不慣れな方でも、この鑑賞のコツを読めばもう安心です。気楽に、展覧会を楽しむためのコツをご紹介します!

① 順路は気にしないで!
好きな作品を、好きな角度で見れば良いんです。順番に見なければストーリーがわからないという展覧会ではありませんから(笑)

② 時間は気にしないで!
じっくり見なくても良いんです。さらりと、ふわりと花を眺めるように、でも、気に入ったものがあれば、それはそれでじっくりで。ご自身のペースで楽しんでいただければOK!

③ 会話も楽しんで!
ご友人ご家族でのご鑑賞ならば、作品について感想を分かち合いますよ。小さな声で、他の来館者の方を気遣っていただければ、大丈夫。……

博物館という、どうしても堅苦しいイメージがありますが、他人に迷惑をかけること、作品や資料を壊さないようにすること、このルールを守れば、たいいていのは大丈夫!



うなづねのオスマン... 寄木の飾棚

この空間には何を置いたんだろうね?

へんりの彫刻 寄木の模様 細部が美しい

この人—金子皓彦氏

【略歴】金子皓彦(かねこ・てるひこ)

昭和16年(一九四一)、神奈川県生まれ。昭和39年、國學院大学文学部史学科卒業。同年より國學院大学考古学資料室、昭和60年より東京女子短期大学にて調査研究ほか教鞭を執る。現在、國學院大学客員教授。その他、各地の文化財関連委員等を歴任。主な経歴として、大和市文化財保護審議会委員など。

今回の展覧会に出品される90%以上が、金子氏のコレクションです。半世紀以上かけて蒐集した点数は、一説には10万点とか。「もう僕にも正確にはわからないよ」と屈託のない笑顔で軽やかに些末なことだと笑い飛ばします。博識な金子氏の興味と関心は、80歳をこえても止まることを知らず、今日もまた愛車を駆って東奔西走、コレクションを増やしているそうです。本展の会期中にも、新たな蒐集品が会場にお目見えするかも!?

金子氏ご本人も会期中は足繁く会場に通う予定だとか。



特別展 近代輸出漆器の ダイナミズム

—金子皓彦コレクションの世界—

The Dynamism of Lacquerware for Export in Modern Japan:
The World of the Kaneko Teruhiko Collection

2024 4/27(土)→6/30(日)
会期中に一部の作品の展示替を行います。

神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History
9時30分〜17時(入館は16時30分まで)
【観覧料】 観覧無料(4/27〜5/6まで別途観覧料)
【休館日】

漆器クイズ!〜漆器博士への道!!

漆は何かからできている?

①樹液②石油③デンプン④墨

正解は、①—ワルシノキから採れる樹液です。元は乳白色ですが、空気に触れると褐色になります。特徴的な黒い色は、鉄分を入れて化学反応を起すことで発色します。

漆器の弱点は?

①お酒②海水③日光④レモン汁

正解は、日光—漆は酸にもアルカリにも強いですが、海に沈んだ漆器が、1年半後にそのままの姿で引き上げられたという話もあります。ただ紫外線には弱く、当たり続けると塗膜が弱くなってしまう。

漆器の長所は?

①美しさ②長持ちする③手触り、口当たりの滑らかさ④つや、輝き⑤熱くなく⑥抗菌効果⑦品格がある⑧手取りが軽い、ぬくもりがある
正解は—全部です! (漆職人の意見)

はじまり〜1章

芝山細工

自動ドアが開いて、いき、会場内へ。

最初のプロローグは、真っ黒い空間。そのなか
にど〜んと鎮座します大型の作品たち。芝山細
工の飾棚、寄木細工の飾棚、ライティングビュ
ロー。大迫力ですよ。その大きさを体感してくだ
さい。いくら印刷やテレビ、スマホが高精細になっ
ても、大きさは伝わらない！実際に肉眼で、
身体で味わう良さがある！ここが博物館のステキ
なところですよ。

プロローグで感じて欲しいことは、こんなに素
晴らしい作品が、なぜ今まで知られていなかった
のかな、ということ。想像して欲しいことは、こ
れはどこにあったのかな、ということ。そう、海



1-16
芝山細工飾棚

このたび扉を修復しまして、より綺麗に！

オススメ！

「1」を見て欲しいんだ

第1章

展示の中心には、豪華な装飾が施された「1」が目を引きます。

外にあったから、日本国内に類例が残っていない

から、知られていなかったんですね。大きい理由
も主に西洋の住宅等で利用されることを想定して
いるからですね。国内向けの制作ではないからこ
その大きさ、モチーフという魅力です。

すごい作品を見た！これだけでもおなかないつば
い。あれ、最初からクライマックス？

最初だけ？と思われた方、いえいえ、ここから
が展示会の本体です。というわけで扉の向こう、
奥の部屋へとお進みください。

すると、こちらは第1章、芝山細工が盛大に展
示されており。近代横浜の豪華な時代が、ま
さに甦ったかのような空間が実現していること
でしょう。立ち並ぶ屏風たち、額や小箱まで。素材
も貝や牛骨など、文字通り多彩でしょう。

本展でこだわった内容は、この章です。金子皓
彦氏のコレクションは、各地で開催されてきまし



1-25 (部分)

芝山細工豊年満作図屏風

人物の着物にご注目！超絶豪華な着物なんです！



1-22 芝山細工花鳥図屏風

海外で「ヨコハマ」とよばれる尾長鶏がいることをご存じ？
珍しい日本の動物として認識
されていたから、工芸のデザ
インにもよく登場しますね♪

金子皓彦
『西洋を魅了した「和モダン」
の世界』三樹書房
令和5年増補新訂版

た。その一環で当館でも開催しようとなったとき、
最初から芝山細工にこだわる、横浜で、当館で開
催する意味を十分に拘う、というコンセプトがあ
りました。その中核が芝山細工です。横浜芝山漆
器とも称されるそれらを、たくさん並べて、その
魅力、歴史的な展開を、展示を通じて考えよう
という試みなのです。

ですから、ひとつひとつの作品のちがいを味
わってください。素材の輝き方、色、盛り上げ方
組み合わせ方など。見所がありすぎて、担当
者たちもいつもクラクラしています。そして、そ
れら多様な組み合わせで実現できる意匠・デザ
インを包含して受け止めているのが、漆という存在。
その親和性、懐の広さも、感じ取ってください。

プロローグ

P-1 寄木細工飾棚

金子コレクションを代表する逸品がお出迎え！



【凡例】

◇本目録は、本展覧会に出品されている作品・資料のデー
タをまとめたものです。

◇本目録の順序は、展示順とは一致しません。また、会
場内に本目録に掲載されているすべての作品・資料が
並んでいない場合があります。

◇本目録は、本展の主要な作品・資料のデータをまとめ
たものため、会場に並ぶすべての作品・資料のデー
タは収録されていません。コレクターのご厚意により
参考出品されているものデータは省略しています。

◇本目録に掲載する情報は、以下の順序です。

◆出品番号／作品・資料名称／作者等

◆制作年・制作年代／寸法／材質・技法／所蔵

◆制作年・制作年代は、明らかにする場合、推定ができ
る場合のみ記載しました。

◆寸法は、高×幅×奥行、高×径、縦×横の順です（cm）。

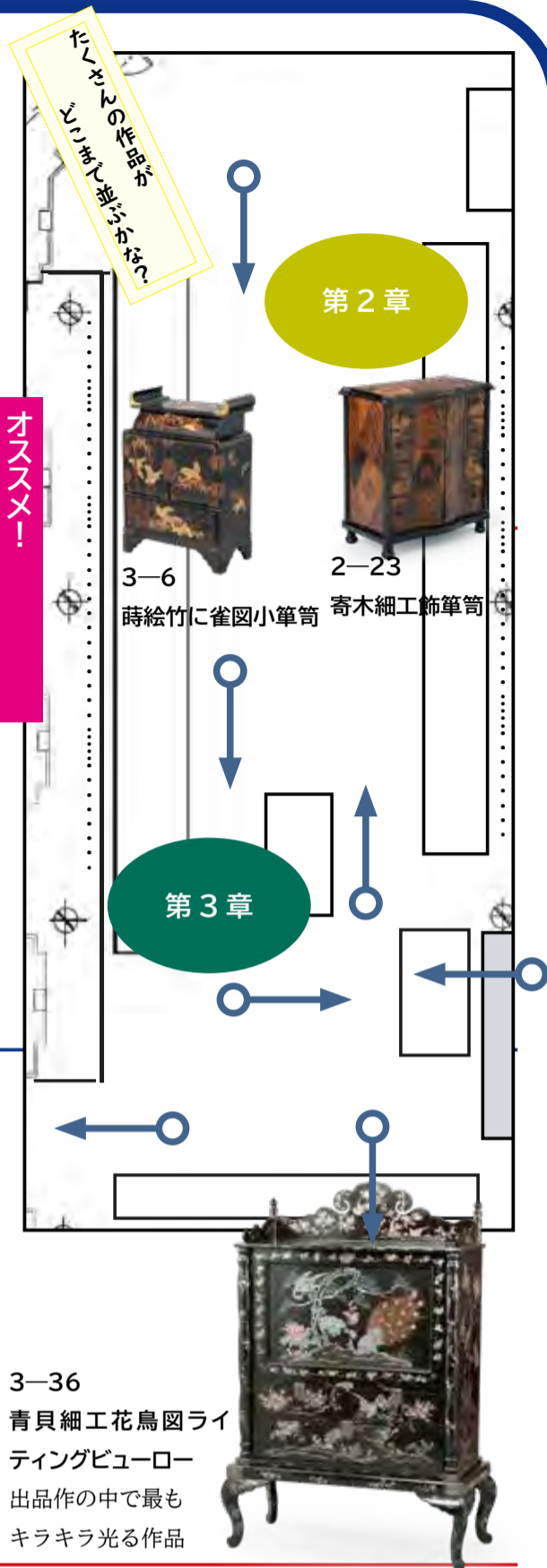
◆材質・技法は、伝承ならびに実見調査に基づきます。

◆所蔵記載のない作品・資料は、すべて金子皓彦コレク
ションです。

- 出品番号
- P-1 寄木細工飾棚
一四七〇×一四五〇×五三二
木、漆、寄木細工
明治5年頃
- P-2 芝山細工飾棚
二〇四〇×二四〇〇×三七五
木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫
- P-3 芝山細工藤に鯉図屏風
一七八〇×一七〇〇×三三五
木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫
- P-4 寄木細工ライティングビューロー
一八一〇×二四〇〇×七七〇
木、漆、寄木細工、木彫
- 1-1 芝山細工富士風俗図アルバム
五〇三三・五〇二七・四
木、漆、芝山細工、蒔絵
- 1-2 蒔絵菊に雀図アルバム
五〇三三・八六二七・四
木、漆、蒔絵
- 1-3 芝山細工藤に鶏図アルバム
六〇三七・〇二七・四
木、漆、芝山細工、蒔絵、透き絵
- 1-4 芝山細工牡丹に鶏図アルバム
六〇三三・〇二七・五
木、漆、芝山細工、青貝細工、錫箔
- 1-5 青貝細工風俗図アルバム
六〇三三・五二七・五
木、漆、蒔絵、青貝細工、錫箔
- 1-6 芝山細工梅に鷹図飾額
八九・五五六・〇五〇
木、漆、芝山細工、透き絵
- 1-7 芝山細工富士に雉図飾額 一对
(各)六二・〇四六・五二・七
木、漆、芝山細工、透き絵
- 1-8 芝山細工桜に尾長鶏図飾額
四六・〇三三・三三・四〇
木、漆、芝山細工、透き絵

- 1-9 芝山細工桜に鷹図飾額
五三・五〇四・〇五〇
木、漆、芝山細工、透き絵
個人蔵
- 1-10 芝山細工梅に雉図飾額
三九・五三九・五二・〇
木、漆、芝山細工、透き絵
- 1-11 芝山細工双鷹図飾額
五四・五五四・五二・〇〇
木、漆、芝山細工、透き絵
- 1-12 芝山細工婦人図飾額
七一・〇四七・〇二・五
木、漆、芝山細工、透き絵、木彫
- 1-13 芝山青貝細工富士風俗図飾額 一对
(各)四四・八四四・八六・七
木、漆、芝山細工、青貝細工、蒔絵、透き絵
- 1-14 芝山細工富士山形風俗図飾額 四点
(各)三六・五二〇・八八一・〇
木、漆、芝山細工、透き絵
- 1-15 芝山宗明関係資料 芝山昌能氏蔵
①パリ万国博覧会出品工芸作家集合写真
(写真)一一・二一・一五三
鶏卵紙、台紙付
明治三十三年(一九〇〇)頃
- ②東京彫工会会員証
二六・〇三四・五
紙本墨書
明治二十六年(一九一三)
- ③東京彫工会第五回競技会賞状
四〇・〇五三・〇
紙本墨書
明治二十三年(一九〇〇)
- ④日本美術協会美術展覧会賞状
四四・〇三三・〇
紙本墨書
明治二十五年(一九一三)
- 1-16 芝山細工飾棚
(総高)二二・六×一四六・八×三七・五
木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫
- 1-17 芝山細工飾棚
(総高)二〇〇〇×二二〇〇×三五・〇
木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫
- 1-18 芝山細工飾棚
一九七〇×一八五×四〇・六
木、漆、芝山細工、蒔絵、木彫
- 1-19 芝山細工桜に鷹図屏風
一七九〇×一四八〇×四〇・〇
木、漆、芝山細工、透き絵、木彫
- 1-20 芝山細工藤と紅葉に鳩図屏風
一九〇〇×二七六〇×三三・〇
木、漆、芝山細工、木彫
- 1-21 芝山細工桜に鷹図屏風
一八六〇×一七三〇×五・四
木、漆、芝山細工、木彫
- 1-22 芝山細工花鳥図屏風
一八〇〇×二二八〇×三三・五
木、ボール紙、漆、芝山細工、透き絵、木彫
- 1-23 芝山細工藤に鳩図屏風
一七八〇×一七六〇×三三・五
木、漆、芝山細工、蒔絵
- 1-24 芝山細工桜に雉図屏風
一五四〇×一五〇〇×四〇・〇
木、漆、芝山細工、蒔絵
- 1-25 芝山細工豊年満作図屏風
一六七〇×一八〇〇×三三・〇
木、漆、芝山細工、蒔絵





2-2 寄木細工ライティングビューロー
楽しい気分で、手紙が書けそうだね♪



2-44 木象嵌水車小屋図箱
木を、絵の通りのかたちに切るだけでも、とっても難しそうだね。



3-66 富士と城郭図アルバム
これはまた不思議なお城ですね。色彩もド派手だし、そもそも漆ですか？これも含めて、「輸出漆器」なんです！



3-36 青貝細工花鳥図ライティングビューロー
出品作の中で最もキラキラ光る作品

はじまりの部屋から奥の部屋へ。ぐるぐるっとケースを巡って、隣の区画へと移ります。すると、第2章そして第3章へと展開していきます。当館をよくご存じの方は、いつもとは見慣れない展示空間になっていることにお気づきでしょう。迷路のようにケースを配置しています。今回の展示の見所でもあります。できる限り、大きな作品をよく見せようという配慮です。

第2章は寄木細工、木象嵌をメインとした章。そして第3章は、輸出漆器全体を紹介する章となります。今回の展覧会の本体は、1・2・3章ですが、それぞれの章で、作品や資料がきれいに分かれるわけでもありません。相互に関連する作品

会場案内②
寄木・木象嵌 輸出漆器
2章〜3章

や資料があります。ですから、部屋・区画が別でも、たとえばデザインの似通った作品同士は一緒に展示している場合もあります。

寄木細工は、箱根がその産地として有名です。今でもその制作は盛んですが、かつては静岡でも盛んでした。本展では、近代輸出品として制作された一連の作品も紹介します。佐藤商店の漆器は、本展で紹介するうち、制作社名のわかる数少ない作品です。同店は漆器店ですが、寄木細工も同時に扱い、ひとつの作品のなかでも共存している興味深い作例です。

このように、各産地が各々の強みを活かしながら多くの制作をおこなっていました。ただ、今回出品される作品のうち、産地が明らかになる作例は決して多くはありません。制作者名や産地など、特定できる情報が作品に明記されている事例はほとんどないからです。また、技術者や技術、作品や

作品のパーツが、移動するため、各地や各社の違いとして把握することは、実に困難です。このような密なネットワークは、交通が整備された時代相によるといえるでしょう。

第3章の見所は、漆器の素材的なひろがりです。第1章では芝山細工に焦点をあて、貝や骨との親和性を紹介しました。第3章では、青貝と鼈甲を集中的に取り上げます。いずれも華麗な色彩や意匠を漆器の表面に加えます。

加えて、漆の代替素材ともなる合成樹脂系塗料や、木とは異なる素地として金属やベークライトなども紹介します。漆器の新時代を拓こうという挑戦は、戦後そして現代へ続くことを示唆します。

- 当館 Instagram でも本展について配信中心！
フォローしよう！
- 1 26 芝山細工花鳥図屏風 一三六〇×一六四〇×三一九
 - 1 27 芝山細工紅葉に大鷹図屏風 二〇六〇×一九〇〇×六三三
 - 1 28 芝山細工風俗図飾棚 八八六×八三九×三三二
 - 1 29 芝山細工小筆筒 三九〇×五三〇×二九五
 - 1 30 芝山細工梅に小鳥図箱 九五×三〇・五×二三・五
 - 1 31 芝山細工藤に小鳥図箱 八・五×二五・七×一八・五
 - 1 32 漆、芝山細工、透き絵 蒔絵花鳥風景図箱 七〇×一九・五×一六七
 - 1 33 漆、芝山細工、透き絵 芝山細工花虫図盆 二八×四七・五×三五・八
 - 1 34 木、漆、芝山細工 芝山細工花鳥図飾皿 三〇×二一・三×一五〇
 - 1 35 金属、芝山細工 芝山細工人物図チョコレート箱 七・五×二〇・〇×一五・三
 - 1 36 木、漆、芝山細工、透き絵、蒔絵 芝山細工牡丹図衝立 七七〇×五二・一×一一・五
 - 1 37 木、漆、芝山細工、木彫 芝山細工花籠図額 五四〇×三七・五×二二・五
 - 1 38 木、漆、芝山細工、木彫 芝山細工菊に蝶図飾額 五七〇×四一・五×七五
 - 1 39 木、漆、芝山細工、木彫 芝山細工牡丹に蝶図飾額 五七〇×四一・五×八〇
 - 1 40 木、漆、芝山細工、木彫 芝山細工花籠図小筆筒 一五・五×一四・〇×七〇
 - 1 41 象牙、木、芝山細工 象牙細工象置物 一五〇×八・五×一九・五
 - 2 1 象牙、水晶、芝山細工 寄木細工飾棚 七七・五×七四・五×三六・〇
 - 2 2 木、漆、寄木細工、蒔絵 寄木細工ライティングビューロー 一六六・五×一五二・〇×七六・五
 - 2 3 木、寄木細工 寄木細工ライティングビューロー 九一・〇×八三・三×三四・三
 - 2 4 寄木細工、木象嵌 寄木細工飾棚 一七〇・〇×一一八・〇×三三・〇
 - 2 5 寄木細工、木彫 寄木細工飾枕 一五三・〇×一一五・〇×三五・〇
 - 2 6 寄木細工飾棚 二〇〇・〇×二〇〇・〇×三五・七
 - 2 7 寄木細工、木彫 寄木細工飾棚 一一五・〇×九五・五×二八・〇
 - 2 8 寄木細工 寄木細工小飾棚 四二・五×二七・〇×一三・八
 - 2 9 寄木細工、木彫 寄木細工屏風 四曲一雙 一一〇・五×一八二・〇×二二・四
 - 2 10 寄木細工、木彫 寄木細工簾扉付書架 七五・五×四五・〇×二〇・五
 - 2 11 寄木細工、木象嵌 寄木細工小筆筒 六一・五×六〇・〇×二〇・〇
 - 2 12 寄木細工、木象嵌 寄木細工筆筒 三七・〇×三六・三×一五・〇
 - 2 13 寄木細工 寄木細工棚 四九・二×四一・七×一七・八
 - 2 14 紙、写真銅版印刷 日本百景(其五) 四七・〇×三二・八
 - 2 15 寄木細工花鳥図ネストテーブル (最大)七三・〇×五四・五×三九・〇 (最小)六八・〇×三三・七×三三・〇
 - 2 16 寄木細工、蒔絵 寄木細工チェスターソファ 一一七・〇×九四・〇(展開時)×六三・〇
 - 2 17 寄木細工、木彫 寄木細工飾筆筒 一一五・五×六四・五×三一・五
 - 2 18 寄木細工、蒔絵 寄木細工時給松に鷹図小筆筒 一七〇×四三・〇×三三・五
 - 2 19 寄木細工、青貝細工 寄木青貝細工花鳥図小筆筒 三五・七×二九・五×一三・五
 - 2 20 寄木細工、木彫 寄木細工小筆筒 五四・三×四六・〇×二五・五
 - 2 21 寄木細工、蒔絵 寄木細工時給富士図筆筒 五八・〇×六〇・〇×三一・五
 - 2 22 寄木細工、蒔絵 寄木細工手元筆筒 四八・〇×四五・一×二三・〇
 - 2 23 寄木細工 寄木細工飾筆筒 二九・八×二七・〇×一五・〇
 - 2 24 寄木細工、蒔絵 寄木細工家形筆筒 六二・〇×七三・八(展開時)
 - 2 25 寄木細工、蒔絵 寄木細工時給銘木硯箱 五・六×三九・〇×九・二
 - 2 26 寄木細工、蒔絵 寄木細工旅枕 一六・〇×二一・八×九・〇



特集 ワザを見る ワザを知る

このたびの展覧会では、多彩な工芸作品が並んでいます。これらがどのように作られたのか、気になりませんか？この特集では、それらをつくらせたワザについて、ご紹介していきます。

●芝山細工

芝山細工とは、いろいろな種類の貝や牛の骨、象牙など、様々な素材を文様の形に加工し、漆器や木工品の表面に立体的にはめこむ技法のことを指します。この技法ははじめ、江戸時代後期に江戸で発展しました。明治期になると、横浜で作られた輸出向け漆器の装飾として盛んに用いられるようになります。芝山細工の特徴は、その立体感です。レリーフのように薄く表面から盛り上がる技法（平模様）。土台をつけて表面から浮くようにあらかず技法（寄貝）。花びらを一枚一枚かたどったパーツを取り付け、立体的な花をあらわす技法（浮き上げ）があります。こうした装飾は、見る角度によって色が変わる貝や、湾曲した牛骨や象牙など、素材の色やかたちを活かして作られています。華やかな芝山細工による花や鳥の表現は、外国からの人気をあつめました。

◎平模様

比較的控えめな立体感をもつ表現です。まず、貝や象牙などの素材を文様の形に切って、細部を彫り込みます。こうしてできたパーツは「模様」と呼ばれます。次に、器物の表面にこのパーツがぴったり収まる形のくぼみを彫り込んで、そこに「模様」を象嵌します。パーツはくぼみよりも厚く作られるため、表面から一段高くなるのが一般的です。



ひらたいのも もりあがつているのも
うきあがつているのも ぜんぶ芝山！

◎寄貝

特に、鳥の表現をする際に多く用いられます。木材で鳥の身体を、その丸みもあらわしながら大まかにかたどり、土台を作ります。ここに胴や翼などの各部位を貼りあわせていくのです。そのパーツは主に貝を切り出し、細部を彫って作られます。湾曲する貝の形や、様々な部分の色が活かされている点が特徴です。土台を作る際には、貼る貝の厚みを考慮して段差をつけ、さらに立体感を演出します。

◎浮き上げ

芝山の中でも最も難しい技法とされています。主に象牙や牛骨などを用いて作られ、特に花をモチーフとした作品が多いです。牛骨や象牙の根本の方などは、中央に空洞があり筒状になっており、その湾曲を活かして、花弁や葉などを一枚ずつ立体的に作ります。完成した花弁を中央の花芯に寄せるようにまとめ、当て木をあて、器物の表面にビスで留めたり、象嵌したりして固定します。白



一色だからこそ、花びらの重なりによる影が印象的です。

●青貝

18世紀には、黒漆塗の表面に薄貝を張り付けて花鳥図をあらわす漆器が多く作られていました。これは長崎を中心に取引され、長崎螺細や青貝細工と呼ばれていました。この青貝細工とは、鮑貝の外皮を砥石で削って0.1mmほどの厚みになるまで薄く研いだものを用います。貝片の裏側に墨で輪郭を描き、輪郭線の上から彩色をほどこし、さらに錫箔を貼って彩色や輪郭を際立たせます。この技法のことを伏彩色といいます。薄く輝く貝片を透かして見える鮮やかな色が特徴で、江戸時代後

ギラギラ、青貝は芝山よりもさらに派手



ワザ「青貝」の典型例じゃー！
「青貝」の厚みは「青貝」より薄ー！



どーんと飛び出さー、キリキリ輝く☆
しーんと漆の海に沈む細工の奥深さ！！

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|----|---|----|---|----|--|----|--|----|--|----|--|----|---|----|------------------------------------|----|------------------------------------|----|---|----|--|----|--|----|--|----|---|----|--|----|---|----|---|----|--|----|---|
| 27 | 寄木細工レターボックス
一三・五〇×三七・三〇×三〇・一
木、漆、寄木細工、蒔絵、青貝細工 | 28 | 寄木細工レターボックス
一〇・〇×三三・八〇×三〇・三
木、漆、寄木細工、蒔絵 | 29 | 寄木細工レターボックス
三〇・〇×三〇・五〇×一九・三
木、漆、寄木細工 | 30 | 寄木青貝細工入り盆 二点組
(大)一七・七×二二・三×一五・三
(小)一七・七×二二・三×一四・三
木、漆、寄木細工、青貝細工 | 31 | 寄木細工盆 二点組
(大)二〇・〇×一七・〇×一〇・八
(小)一〇・〇×一四・三×八・二
木、漆、寄木細工 | 32 | 寄木細工蒔絵入り硯蓋 二点組
(大)四・五×二・五×二・五×三
(小)四・〇×二・三×二・三×二・七
木、漆、寄木細工、蒔絵、変塗 | 33 | 寄木細工蒔絵雀園宝石箱
一三・二×三三・三×二二・三×七
木、漆、寄木細工、蒔絵 | 34 | 寄木細工文箱
一四・一×三三・四×二五・七
木、漆、寄木細工、蒔絵 | 35 | 寄木細工文箱
一〇・〇×三〇・〇×二二・五
木、寄木細工 | 36 | 寄木細工文箱
一〇・〇×三〇・〇×二二・五
木、寄木細工 | 37 | 木象嵌抱一画貼交屏風 二曲一雙
一七・六〇×一八・二〇×二二・五
木、木象嵌、木彫 | 38 | 木象嵌富士園シガー&シガレットケース
二五・〇×一六・五×一六・五
木、木象嵌 | 39 | 箱根細工製作用具
(国指定登録有形民俗文化財)
箱根町立郷土資料館蔵
①手動大型鉋
九四・〇×一七・五×四二・〇
②足踏み式糸鋸
一〇・九〇×七・五×〇・七六・〇
③木象嵌牡丹に蝶園箱
一〇・〇×一九・五×二二・三・五
木、木象嵌 | 40 | 木象嵌牡丹に孔雀園箱
一一・七×二二・五×二七・五
木、木象嵌 | 41 | 木象嵌富士園箱
九・〇×二五・七×一九・七
木、木象嵌 | 42 | 木象嵌富士園ひみつ箱
九・五×二五・五×一九・五
木、木象嵌 | 43 | 木象嵌水車小屋園箱
一三・八×三六・〇×二九・三
木、木象嵌 | 44 | 木象嵌トランプケース
①(天板トランプ文、内箱回転開き)
三二・九×二二・五×八・五
木、木象嵌 | 45 | 木象嵌 | | |
| 27 | ②(菱つなぎ文、引き出し縦二段)
八・五×一・一五×七・〇
木、木象嵌 | 28 | ③(天板ダイヤのキング文、蝶番開き)
八・〇×一・一三×六・〇
木、木象嵌 | 29 | ④(側面富士風景園、引き出し縦二段)
八・〇×一・一三×六・〇
木、木象嵌 | 30 | ⑤(天板トランプ文、スライド式)
七・〇×二二・二×八・〇
木、木象嵌 | 31 | ①(蒔絵トランプ文、口波形)
九・五×一〇・五×五・五
木、漆、蒔絵 | 32 | ②(蒔絵トランプ文、側面菱紋)
九・三×二二・二×六・一
木、漆、蒔絵 | 33 | ③(蒔絵トランプ文、側面巴文)
九・五×二二・〇×六・五
木、漆、蒔絵 | 34 | ④(金属板装飾、菱紋)
八・二×二二・〇×七・二
木、漆、蒔絵 | 35 | 木象嵌絵葉書
(各)九・〇×一四・〇
木、紙、木象嵌 | 36 | 三井常販商店資料
前掛け
七・〇×四四・五
布 | 37 | ハリマ屋資料
①荷印型付板(箱根物産ハリマ屋)
四七・三×三三・〇
金属 | 38 | ②荷印型付板
(F・W・WOOLWORTH CO. STORE)
三一・五×五二・四
金属 | 39 | ③荷印型付板(BSCO NEWYORK)
三一・五×四四・〇
金属 | 40 | ④荷印型付板(MADE IN JAPAN)
一〇・五×四一・〇
金属 | 41 | 鍵和田商店資料
①昭和七年五月九日付大和商会覚書
二七・九×二二・七
紙、印刷、ペンほか | 42 | ②昭和七年三月三日付大和商会覚書
二七・一×二二・四
紙、印刷、ペンほか | 43 | ③昭和七年三月二二日付丹波商会覚書
二七・九×二二・七
紙、印刷、ペンほか | 44 | ④昭和七年三月一日付中村貿易商会覚書
一九・九×二七・〇
紙、印刷、ペンほか | 45 | 大鷲猿捕獲図蒔絵屏風
一八・九〇×二〇・九六×三・三五
木、漆、蒔絵、透き絵 | 46 | 透き絵菊に鶴園屏風
一七・九〇×一六・八〇×三・三五
木、漆、蒔絵、透き絵 |



大きい寄木 小さい寄木
木の色を連ねて模様をつくる
リズムカルな模様たち



●寄木細工

寄木細工は、様々な色や木目をもつ木材を組み合わせて、幾何学的な模様を作る技法です。細かく組んだ様々な幾何学模様のパターンをつなぎ合わせた小寄木や、大きな木材を組み合わせた乱寄木などがあります。用いる木材の種類と文様の組み合わせで様々な表現ができます。寄木細工は箱根や静岡で制作されてきました。シーボルトも江戸参府の際、箱根や静岡で寄木細工を目にし、いくつかを持ち帰っています。明治を迎えると輸出品の制作が盛んになり、大型の家具など、新しい形のものも生まれました。漆塗で仕上げたものと、蠟引きなどで仕上げたものがあります。どちらも漆器商によって扱われていた例があります。西洋の日本趣味に応えた寄木細工の家具・調度や、土産物の数々を、本展ではご紹介します。

●木象嵌

木象嵌は、あるモチーフの形に切った木材を別の材料にはめ込んで絵や文様をあらわす技法です。直線に切った木を使う寄木細工と違い、自由な線を描くことができます。木材の色を活かした、絵のようなデザインが特徴です。波打って見える木目や、鱗のような木目があれば、水面や雲の部分に使うこともあります。木材そのものの色と模様を活かすが、木象嵌の魅力です。現在の木象嵌は、裁縫用の足踏みミシン



書も制作されました。木象嵌は、現在でも、箱根や小田原を中心に制作されています。

●鼈甲

鼈甲細工は、海亀の一種である玳瑁の甲羅を材料とする工芸品、その技術です。玳瑁は熱帯に生息し、甲羅はいわゆる亀甲状ではなく鱗のように一枚一枚重なっています。餛飩色で斑が入った文様と、その透過性をもつ素材という特徴が挙げられます。蛋白質である鼈甲は、熱と水を与えるとやわらかくなり、粘着する性質があります。加熱加工により、何



木象嵌のかわいいシガレットケース
かつての喫煙具は大人のオシャレ♪

本展出品中で、最も豪華な逸品！
象牙×鼈甲×金工×蒔絵×眼福◎

の構造に糸鋸を合体させた、糸鋸ミシンを使って作ります。完成した種板を鉋で削ることによって同じ図柄を何枚も制作できます。これを箱などの表面に貼り付けたり、紙に貼って絵葉書も制作されました。土産物として好評を博した名入れサービス、お手の物ですよ♪

「ふみ子」さんへのお土産ですよ♪

●麦稈・麦わら

近代において、帽子などの材料に用いられた麦わらは、日本から外国への重要な輸出品でした。それを加工した麦わら細工も、土産物として人気がありました。筒のような麦わらの茎を開いて帯状にし、短く切ったものを、箱や抽斗などの表面に貼る技術です。麦わら細工は、兵庫の城崎や東京の大森で盛んにつくられました。シーボルトも江戸参府の際に大森で、麦わら細工を目にしています。様々な色に染まりやすく、鮮やかな色合いを表現できること、角度に光り方がよって変わり、複雑な表情をみせることが魅力です。麦わら細工には、寄木細工と似た模様をあらわすものもあります。直線的なパターンが共通することから、お

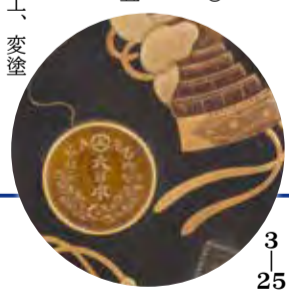


ディスプレイズ・ベッコウ
じっくりと近寄って観察して！

枚も重ねて厚みを出したり、その継ぎ目を消したりできるので、大きな素材を作ることも可能でした。また、熱を加えて曲げたり、木などの表面に貼り付けたり、様々な形に加工することが容易でした。漆との親和性も高く、鼈甲の上に、蒔絵などが描かれる作例も多くあります。左に紹介する作品は、杉の板の木目を透명한鼈甲を透かして見せつつ、鼈甲の上には蒔絵が描かれています。なんとも豪華な装飾です。

特集 ワザを見る ワザを知る

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--------------------------------------|------|---|------|--|------|--|------|---|------|---|------|---|------|--|------|---|------|---|------|---|------|--|------|--|-----|---|-----|-------------------------------------|-----|--|-----|--|-----|--|-----|---|-----|---|
| 3-22 | 木、漆、蒔絵
蒔絵花鳥図手袋入れ
八・五×二・一〇×三・八五 | 3-21 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵花鳥図手袋入れ
八・二×二・一五×三・三五 | 3-20 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵牡丹図扇形小抽斗
九・五×四・六×三・〇〇 | 3-19 | 木、漆、青貝細工、蒔絵
蒔絵花鳥図手袋入れ
八・二×二・一五×三・三五 | 3-18 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵菊に小鳥文箱
九・五×二・八〇×二・一五 | 3-17 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵花鳥図箱
一六・四×三・六×二・二五・七 | 3-16 | 木、漆、透き絵、蒔絵
青貝細工櫛に鴨図箱
一一・五×三・〇×五・二・一三 | 3-15 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵鶴図宝石箱
一一・〇×三・六×二・二五・七 | 3-14 | 木、漆、蒔絵、変塗
蒔絵扇散らし図箱
六・五×一・六×五×一・八五 | 3-13 | 木、漆、寄木細工、木象嵌、蒔絵、変塗
蒔絵吉祥文様ゲーム箱
一〇・〇×三・七・〇×三・〇五 | 3-12 | 木、漆、寄木細工、蒔絵
木象嵌寄木細工硯箱
九・五×二・一〇×二・八〇 | 3-11 | 寄木細工波に鶴図宝石箱
一・三〇×三・三・〇×二・五・三 | 3-10 | 紙、印刷、冊子、袋付
明治三十六年（一九〇三）個人蔵 | 3-9 | 木、漆、蒔絵、寄木細工、変塗
漆塗り見本帖
三・〇×一・八〇×二・三〇 | 3-8 | 木、漆、蒔絵
蒔絵花鳥果実図箱
四・八×三・三九×一・八五 | 3-7 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵竹に雀図小筆筒
三・三×七・二×二・二×二・一 | 3-6 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵武具古銭図小筆筒
三・五×二・八×二・二×一・四〇 | 3-5 | 木、漆、透き絵、蒔絵、変塗
蒔絵花鳥図小筆筒
四・〇×三・三〇×三・一四・七 | 3-4 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵富士山群鶴図小筆筒
二・九×二・六×二・〇×二・二〇 | 3-3 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵獅子牡丹図筆筒
四・四×五・四×五・二×三・二五 |
| 3-35 | 木、漆、蒔絵
②円形漆刑像壁掛け
一・〇×径・二五・五 | 3-34 | 木、漆、沈金
漆絵一輪挿し 二点
(赤) 一一・二×径五・五
(黒) 一一・五×径五・七 | 3-33 | 木、漆、蒔絵
沈金唐草図カケルガラスセット 二点
(各) 一〇・九×径六・一 | 3-32 | 木、漆、蒔絵、変塗
蒔絵梅に尾長鶏図カケルセット
(ガラス) 一一・一×径五・五
(トレイ) 三・〇×径二・六
(シェイカー) 二・〇×径一・〇 | 3-31 | 木、漆、蒔絵
変塗古銭図カップ
(各) 四・八×幅八・九×径七・五 | 3-30 | 木、漆、蒔絵
蒔絵山水図カップ&ソーサー
(カップ) 四・四×幅七・五×径六・〇
(ソーサー) 二・〇×径九・三
(スプーン) 長一〇・三 | 3-29 | 木、漆、蒔絵
蒔絵花鳥図カップ&ソーサー
(ソーサー) 一・五×径一〇・五 | 3-28 | 木、漆、合成樹脂塗料
富士図隔棚
四・八×五・一七×三・一七〇 | 3-27 | 木、漆、蒔絵
富士図隔棚
三・五×一・四〇×一・四〇 | 3-26 | 木、漆、蒔絵
風景図飾額 二点
(各) 三・〇×五・一五×一・六 | 3-25 | 木、漆、蒔絵
③蒔絵枝垂れ桜に鳥図筆筒
一一・五×九・七×六・〇 | 3-24 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵和歌浦山水煙草盆セット
(盆) 二・五×三・二五×一・七・八
(煙草入) 五・〇×一・三・五×一・〇・五
(灰皿) 四・〇×一・〇×一・〇×三・五
(マッチ立) 三・〇×六・〇×三・五 | 3-23 | 木、漆、透き絵、蒔絵
蒔絵花鳥図手袋入れ
七・五×一・〇・五×三・〇・五 | | | | | | | | | | | | | | |



会場案内③
金子コレ〜

いよいよ終盤です。始まりの部屋を抜け、奥の空間、当館では特別展示室と呼ぶ、大きな二つの区画で第1章から3章までを展示しました。そこから扉を出て、短い廊下を抜けると、また小部屋へと移ります。当館では、コレクション展示室と称している部屋です。この展示室は、二つの区画に分かれますが、その最初の区画で、本展の展示内特別企画ともいえる「金子皓彦コレクション展」を開催しております！

真摯にコレクターと向き合い、当館のミッションを実現しようとした結果、特別展の内部にもうひとつ展示が実現した、してしまつた、というわけです。もとい、コレクターの情熱とコレクションが有り余って：（以下略）

では、この展示が付け足りないのかといえませんが、あらず。むしろ、そのコレクションの総体は、この小さい区画に凝縮されているといえます。23種



I-10
麦わら細工シガー&
シガレットケース

この部屋は本展だけのための特別な部屋♪漆器以外の様々なモノがたっぷり！会期中にも作品が増えていくかも？！

金子皓彦
コレクション



I-8
上絵金彩人物図壺



I-9
黒地菊図大花瓶
大きな七宝の花瓶・・・
花は入れないよね？

オススメ！
「ここを見て欲しいんだ」

類にも及ぶ群像は、サイズの大小、素材の多様性、時代など、とてもひとりの学芸員では及びません。また既存の学問体系では、これまで重視されてこなかった麦藁細工や竹細工、玩具などが集積する点に特徴があります。コレクターの優しき、慧眼が発揮されているわけですが、なにしろ多彩、雑多、その魅力は簡単にまとめることは不可能、それこそが魅力だ、とここではまとめておきます。

そして、いよいよ本展も最後のコーナーへと移ります。もう一度、漆器、木工芸へと帰ってくるわけです。当館、神奈川県立歴史博物館のミッションとして、かながわの戦後、そしていまの木工芸、伝統工芸の一端を紹介いたします。

神奈川県では、戦後、小田原に所在する工芸指導所を中心に、木工芸を支援・指導してきました。かつて同所が依頼して制作された屏風は、戦後の芝山師らの活動が集積された大切な1点です。普段は小田原で公開されていますが、今回は先行する多くの芝山の屏風と並ぶ面白さがあります。

そして、現在活動されている寄木細工作家の篠田さん、木象嵌作家の浅野さんは、金子氏よりこ

エピローグ



E-1
芝山細工花鳥図屏風
戦後芝山細工の逸品です！



E-13
芝山細工山吹図漆額
現役芝山師の妙技をご堪能あれ！

特別展はこれでおしまいだよ。でも、常設展示室、3階、2階にも関連展示があるんだって。7頁を読んでね♪

◎展覧会特別サイトは「こちらからどうぞ」

担当者ブログほか
展覧会情報満載！

紹介いただきました。今日の技術だからこそできる興味深い作品があることをお伝えできれば幸いです。そして、大トリを飾っていただくのが、最後の芝山師という宮崎輝生氏の作品です。造形力強さと同時に、繊細な光を丁寧な彫と重なりで表現する、芝山の真骨頂をご堪能ください。

- 3 51 青貝細工蘭亭曲水図手元筆筒 四六・二二・四六・八・二七・〇
- 3 50 青貝細工富士風俗図屏風 四曲二双 九一・五〇・一〇・〇・〇・二・一
- 3 49 木、漆、青貝細工、透き絵、蒔絵 貝象嵌孔雀図屏風 二曲一雙 一四八・七・一四四・〇・二・五
- 3 48 木、漆、貝細工 青貝細工梅に尾長鶏図額 一对 (各)五三・〇・四一・五・二・五
- 3 47 木、漆、青貝細工、透き絵、蒔絵 青貝細工花鳥図薬箱 (箱)一七・五・二・三・〇・一・五・〇
- 3 46 木、漆、青貝細工、色絵磁器 江戸時代末、明治時代 青貝細工山水図ゲームセット (盆)三・八・三・〇・〇・二・六・六 (箱)各四・〇・一・〇・五・八・六
- 3 45 木、漆、青貝細工 青貝細工花鳥図レターボックス 一三・五・四・五・五・二・五
- 3 44 木、漆、青貝細工 龍甲細工鷹図箱 八・〇・二・七・〇・二・〇
- 3 43 木、漆、龍甲細工、蒔絵 龍甲細工蒔絵花鳥図小筆筒 三・七・三・〇・九・一・五・五
- 3 42 木、漆、龍甲細工、芝山細工、蒔絵 龍甲細工蒔絵花鳥図小筆筒 二・七・六・二・八・五・一・八・四
- 3 41 木、漆、龍甲細工、蒔絵 龍甲象牙細工万物斉同図飾棚 三六・〇・四・〇・五・二・六・二
- 3 40 木、漆、龍甲細工、象牙細工、蒔絵 磁胎蒔絵獅子図花瓶 一对 (各)五五・〇・〇・二・二
- 3 39 陶磁器、漆、蒔絵 江戸時代末、明治初期頃 蒔絵桜に鳥図花瓶 二五・〇・〇・一四・〇
- 3 38 陶磁器、漆、蒔絵 蒔絵葡萄に鳥図花瓶 二四・五・〇・一五・五
- 3 37 陶磁器、漆、蒔絵 蒔絵鶴図花瓶 一八・二・〇・一八・九・〇
- 3 36 青貝細工蘭亭曲水図手元筆筒 四六・二二・四六・八・二七・〇
- 3 青貝細工花鳥図ライティングペンロー 一四九・〇・一〇・五・〇・三・八・〇
- 3 木、漆、青貝細工、蒔絵
- ⑤漆絵衝立付十字架立 一六・五・一・九・五・九・五
- ⑥十字架立 (各)二・五・一・七・五・九・五
- ⑦木、漆、蒔絵
- ⑧青貝細工花鳥図ライティングペンロー 一四九・〇・一〇・五・〇・三・八・〇
- ⑨木、漆、青貝細工、蒔絵
- ⑩キリスト教教具聖書書見台 (閉)四・五・二・八・五・四・八・〇 (開)三・四・〇・二・八・〇・三・二・〇
- ⑪木、漆、蒔絵
- ⑫金属象嵌葡萄文十字架 三・〇・〇・一・六・〇・五・〇
- ⑬木、漆、蒔絵
- ⑭漆絵衝立付十字架立 一六・五・一・九・五・九・五
- ⑮十字架立 (各)二・五・一・七・五・九・五
- ⑯木、漆、蒔絵
- ⑰青貝細工花鳥図ライティングペンロー 一四九・〇・一〇・五・〇・三・八・〇
- ⑱木、漆、青貝細工、蒔絵
- ⑲漆絵巖島神社図盆 四・〇・三・三・一・三・五・二・〇
- ⑳木、漆、錫箔 蒔絵桜図盆 四・五・三・九・五・二・八・〇
- ㉑木、漆、蒔絵 蒔絵桜に鳥図盆 五・〇・三・三・九・五・二・七・五
- ㉒木、漆、蒔絵 蒔絵鴛鴦図盆 三・七・四・五・二・三・〇・五
- ㉓木、漆、蒔絵、錫箔 蒔絵枝垂れ桜に鳥図盆 三・〇・四・一・五・二・四・五
- ㉔木、漆、蒔絵 蒔絵富士蝶図手長盆 二点 (大)三・五・六・〇・五・三・六・〇 (小)三・二・五・八・八・三・四・四
- ㉕木、漆、蒔絵、透き絵 蒔絵朝顔図角盆 (盆)二・四・六・四・七・三・五・〇 (英字木箱)四・五・六・九・〇・三・九・〇
- ㉖金属、漆、蒔絵 牡丹図トレイ 三点 (大)四・五・四・七・五・二・八・五 (中)三・八・二・七・〇・二・六・八 (小)三・八・二・七・〇・一・八・〇
- ㉗ベークライト、漆、か 富士図オルゴール付アルバム 六・〇・四・二・五・二・八・〇
- ㉘木、漆、合成樹脂塗料、青貝細工 富士図オルゴール付アルバム 五・五・四・三・〇・二・七・五
- ㉙木、漆、合成樹脂塗料、青貝細工 富士図オルゴール付アルバム 六・五・四・七・五・二・七・五
- ㉚木、漆、合成樹脂塗料 富士人力車図アルバム 二・五・三・九・〇・二・七・五
- ㉛木、漆、合成樹脂塗料、青貝細工 富士日本地図図アルバム 三・五・三・九・〇・二・七・五
- ㉜木、漆、合成樹脂塗料 富士と鷹図アルバム 四・〇・三・九・〇・二・七・〇
- 3 65 木、漆、合成樹脂塗料
- 3 64 富士と鷹図アルバム
- 3 63 富士日本地図図アルバム
- 3 62 富士図オルゴール付アルバム
- 3 61 富士図オルゴール付アルバム
- 3 60 富士図オルゴール付アルバム
- 3 59 木、漆、蒔絵、透き絵 蒔絵朝顔図角盆 (盆)二・四・六・四・七・三・五・〇 (英字木箱)四・五・六・九・〇・三・九・〇
- 3 58 金属、漆、蒔絵 牡丹図トレイ 三点 (大)四・五・四・七・五・二・八・五 (中)三・八・二・七・〇・二・六・八 (小)三・八・二・七・〇・一・八・〇
- 3 57 ベークライト、漆、か 富士図オルゴール付アルバム 六・〇・四・二・五・二・八・〇
- 3 56 木、漆、合成樹脂塗料、青貝細工 富士図オルゴール付アルバム 五・五・四・三・〇・二・七・五
- 3 55 木、漆、合成樹脂塗料、青貝細工 富士図オルゴール付アルバム 六・五・四・七・五・二・七・五
- 3 54 木、漆、合成樹脂塗料 富士人力車図アルバム 二・五・三・九・〇・二・七・五
- 3 53 木、漆、合成樹脂塗料、青貝細工 富士日本地図図アルバム 三・五・三・九・〇・二・七・五
- 3 52 木、漆、合成樹脂塗料 富士と鷹図アルバム 四・〇・三・九・〇・二・七・〇



漆はどいつ？
古代から現代まで
大搜索 @ケンパク

さあ、特別展を見終えたら、いざ常設展示へ！
神奈川県立歴史博物館は、人文系総合博物館です。ですから、漆を用いた資料、作品がたくさんあります、あるんです。それを探してください。
—という企画です。

人文系総合博物館という性格を活かして、これまでも当館は様々なチャレンジをしてきました。
今回は、特別展として「総合」する形式ではなくて、特別展は特別展として近代の美術分野でまとめ、それ以外の時代・分野については、常設展示のなかでご紹介します。つまり、1階から3階まで、漆にまつわるモノがたくさんありますよ！ということなんです。

ここにあります！と全部教えてしまつては、面白みが減りますよね？
ですから、下に地図を掲載して、ヒントはお示しします。ぜひ、みなさんの眼と足で、探し回ってください。

…本来であれば、ここで全部で●点ありますよ、と記せば良いのですが、あえてそういうことはいたしません。各学芸員が日頃の活動の中で、思いつくことがあるかも！と期待して、ここでは点数も記しません。



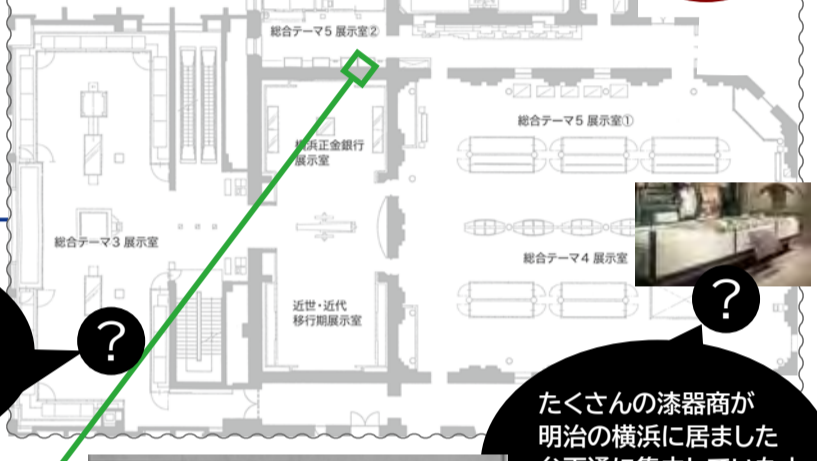
当館所蔵の最大の漆工品?!
さて、これはどこにあるのでしょうか？
こちらは、ず〜っと
展示されていますから、
安心して探してみてください♪



鎌倉彫の工程
作り方が一目瞭然！



装身具 (小玉)
当館所蔵資料で最も古い漆!?
オシャレするにも漆は大切!



江戸時代のかながわでも
漆は採れたというよ!
どのあたりかな?
探してごらん

共有膳
ハレの日の祝祭ムード!

主要な資料や作品のヒントしか掲載しません。あちこちに漆関連の資料や作品はありますから、どうぞ館内をくまなく大搜索してください。
…このように記すと、なんて手抜き、もとい後ろ向きな展示という批判を頂戴してしまうかも知れません。ただ、このような展示手法にした理由があります。それは、私たち当館学芸員ほぼ全員が、漆についてあまり意識していないなど感じました。この展示会をきっかけに、興味関心を深めたいなと思っただけです。ですから、展示会の最中に気がついて、展示することもあり得るのではないかと、そうなることを期待して、すべてを決定した展示にはしないという意図です。

この企画を立ち上げようと思ひ、同僚たちと会話をしていたとき、あれもこれも漆だと気がつき、その喜びを共有した瞬間は楽しくありました。ただ一方で意識しなければ漆がわからないというこの事実は哀しいことかもしれません。それほどに、現代の私たちの日常から漆が遠い存在になっていると示唆するからです。
しかしながら、いま、当館で試みるように、日本という風土では、古来、漆によって様々なモノがつくりだされてきました。その歴史と文化の蓄積は、たいへんに豊かだとわかります。改めてその存在価値を評価し、その魅力に迫っていただければ幸いです。
というわけで、ここまでお読みの方で、まだ探索に出ていない方! さあ、展示室へ急いで!

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---|--|--|--|
| E-2 | E-1 | I-13 | I-12 | I-11 | I-10 | I-9 | I-8 | I-7 | I-6 | I-5 | I-4 | I-3 | I-2 | I-1 | 3-68 | 3-67 | 3-66 |
| 木、寄木細工
平成二十八年(二〇二六)
作家蔵 | 明治前期
芝山細工花鳥図屏風 四曲一双
内山利八、広瀬英太郎、原栄次郎、荒井彦次郎、
宮崎正徳、宮崎輝生、瀬川清一、瀬川昌也
一六七・三二・二九・〇三・三五
木、漆、芝山細工、青目細工、透き絵、木彫、藤絵
昭和四十五年(一九七〇)
神奈川県産業労働局中小企業部中小企業支援
課小田原駐在事務所(工芸技術所)蔵
寄木細工「宝石箱」
篠田英治
四・五二・二五・八・一
木、寄木細工 | 木象嵌騎牛帰家図硯箱
西村莊一郎
四・五二・二〇・二六・二
木、木象嵌
明治前期
芝山細工花鳥図屏風 四曲一双
内山利八、広瀬英太郎、原栄次郎、荒井彦次郎、
宮崎正徳、宮崎輝生、瀬川清一、瀬川昌也
一六七・三二・二九・〇三・三五
木、漆、芝山細工、青目細工、透き絵、木彫、藤絵
昭和四十五年(一九七〇)
神奈川県産業労働局中小企業部中小企業支援
課小田原駐在事務所(工芸技術所)蔵
寄木細工「宝石箱」
篠田英治
四・五二・二五・八・一
木、寄木細工 | 寄木細工蒔絵桃に鳥図硯箱
五・〇二・〇九・一八・八
文久二年(一八六二)
木、寄木細工 | 竹細工家屋雛形
二・三二・二四・二二・〇・九
竹、木 | 麦わら細工シガー&シガレットケース
四二・五二・二五・〇二・一・五
木、麦わら細工 | 黒地菊図大花瓶
一四八・〇〇・胴径五二・〇
七宝 | 上絵金彩人物図壺
保土田太吉
三五・五二・胴径三三・〇×底径一七・〇
陶磁器 | 八角小箱
一五・五二・四二・二四・二
木、寄木細工 | 小抽斗
九・〇二・一六・二二・二二・五
木、寄木細工 | 鏡台
六・六八・八・五二・一・〇
木、寄木細工 | 麦わら細工菊花図箱
七・五二・二二・五二・九三
木、麦わら細工 | 麦わら細工小野道風図箱
一一・九二・三三・九三・三〇・六
木、麦わら細工 | 竹細工小筆筒
二四・七二・二四・〇二・二二・五
木、竹細工 | 寄木細工宝石箱
七・五二・二二・三三・一五・五
木、漆、寄木細工 | 富士日本地図図アルバム
四・〇二・二四・五二・一六・〇
木、漆、合成樹脂塗料 | 富士日本地図図アルバム
三・七二・二七・五二・二〇・〇
木、漆、合成樹脂塗料 | 富士と城郭図アルバム
五・〇二・三九・五二・二七・三
木、漆、合成樹脂塗料 |
| E-13 | E-12 | E-11 | E-10 | E-9 | E-8 | E-7 | E-6 | E-5 | E-4 | E-3 | | | | | | | |
| 木、漆、芝山細工
平成十九年(二〇〇七)
作家蔵 | 木、漆、芝山細工
平成二十五(二〇一三)頃
作家蔵 | 個人蔵
昭和二十二年(一九四七)
芝山細工鷲に桜図漆額
宮崎輝生
五・〇二・三九・五二・一・〇
木、漆、芝山細工、蒔絵
平成二十五年(二〇一三)頃
作家蔵 | 『輸出向工芸品参考資料』
商工省貿易庁商工省工芸指導所編
貿易研究会頒布
二六・三二・一八・五
紙、印刷、冊子
昭和二十二年(一九四七)
個人蔵 | 蒔絵鶴図宝石箱
一一・八二・一七・八二・一五・五
木、漆、木彫、エンゼルオルゴール製
昭和三〇年代
個人蔵 | 鎌倉彫洋園オルゴール箱
八・〇二・三三・〇二・一八・〇
木、漆、木彫、フジオルゴール製
昭和三〇年代
個人蔵 | 浅野慶太
三二・〇二・三二・六
木、木象嵌
令和五年(二〇二三)
作家蔵 | 浅野慶太
三二・〇二・三二・六
木、木象嵌
令和五年(二〇二三)
作家蔵 | 浅野慶太
二七・〇二・二二・〇
木、木象嵌
令和五年(二〇二三)
作家蔵 | 浅野慶太
二七・〇二・二二・〇
木、木象嵌
令和五年(二〇二三)
作家蔵 | 浅野慶太
二七・〇二・二二・〇
木、木象嵌
令和五年(二〇二三)
作家蔵 | 寄木細工「ちいさい秘密箱」 二点
篠田英治
(各)一・二二・一七・一七
木、寄木細工
平成二十五年(二〇一三)
作家蔵 | 寄木細工「寄木小箱」
篠田英治
五・七二・一五・五二・八・五
木、寄木細工
令和四年(二〇二二)
作家蔵 | 木象嵌「寄り添う薔薇」
浅野慶太
二七・〇二・二二・〇
木、木象嵌
令和五年(二〇二三)
作家蔵 | 木象嵌「風神雷神図」 一对
浅野慶太
(風神)三二・〇二・二二・一
(雷神)三二・〇二・二二・三
木、木象嵌
令和四年(二〇二二)
作家蔵 | 木象嵌「浮揚の電神」
浅野慶太
三二・〇二・三二・六
木、木象嵌
令和五年(二〇二三)
作家蔵 | 木象嵌「浮揚の電神」
浅野慶太
三二・〇二・三二・六
木、木象嵌
令和五年(二〇二三)
作家蔵 | 木象嵌「浮揚の電神」
浅野慶太
三二・〇二・三二・六
木、木象嵌
令和五年(二〇二三)
作家蔵 |

横浜散策のご案内

春の展覧会は、とても良い季節ですから、多くの方のご来館を博物館としては望んでおります。そして、博物館にご来館される方々も、良い季節ですから、博物館だけでは満足せずに、その周辺も散策してみようと思われれることでしょう。当館が立地する横浜関内地区は、それこそ散策にはうってつけのエリアです。本展覧会にあわせて、館周辺の観光スポットをご案内しましょう。

え？そんな読み物は他にもいくらでもある？その通りです。ですから、本展にあわせて、です。そもそも当館の立地をご説明することからご案内しましょう。当館は横浜正金銀行旧本店本館を活用した博物館です。明治37年（一九〇四）に竣工した建築は、明治末のこの地区のランドマークだったにちがいありません。関内地区は、ご存じの通り、横浜居留地に由来します。

絵葉書3点をご紹介します。一番上、絵葉書の奥にうつつらとうつつるのが、**当館の建築**です。ドームが堂々としています。そして、当館の陸地側つまり関内駅側の弁天通をうつつ一枚。この通り沿いにたくさん外国人向けの土産物屋が並んでいました。ただ、日本人街にあたりますから、日本建築が中心だったと考えられます。当館のすぐ海側が南仲通、さらに一本海側が本町通になります。

本町通を、現在という県庁方面に進むと、西洋建築が立ち並ぶエリアとなります。居留地らしい、日本国内でありながら、まるで西洋かのようなたたずまいです。

このような絵葉書などを頼りに、いまの町並みを散策してはいかがでしょうか？まったく想像できないという嘆きも聞こえてきそうですが、その傍を歴史として体感するのも一興です。さて、そのまま南へ参りましょう。少しでも、近代横浜を偲びたいとすれば、元町山手地区がオススメです。山手地区に散在する西洋館を訪れましょう。山手資料館や山手234番館、ブラフ18番館など、魅力的な建築、その内部に保管されている横浜家具に至るまで、見所いっぱいあります。

本展でも触れていますが、横浜には西洋家具が近代に入ってきて、その制作もまた漆器職人らと近い距離にあったと想像されます。家具職人の多くは、現在の元町地区に集中したといえます。では、漆器職人はどのあたりに済んでいたのでしょうか？詳しく知りたい方は、本展公式図録に収録した関連地図をご覧ください。

散策のご案内ですから、すぐに簡単に答え合わせ。現在の不老町のあたりに職人さんはたくさんいらしたとわかりました。そして、いま、その辺りに横浜市技能文化会館があります。同館1階にある匠プラザは職人の技と道具の博物館として、芝山漆器についても紹介していますよ。

編集後記「担当者たちのおもひで」

「輸出漆器」と言葉にするとなったの四文字。

されどその言葉の範疇から除かれれば飛び出そうとするゴージャスな家具、大迫力の屏風、かわいいおもちゃ。これは漆器と呼んでよいのか？素材は本当に漆なのか？そんな問いを軽くこえてゆく、初めて見る形の、産地も材料も制作年も決定しきれない、ミステリアスな漆器らしきものたち。一つ一つの作品に触れ、矯めつ眇めつ眺めながら、はじめは途方に暮れました。漆器の定義を厳格に決めるとごぼれてしまいそうな「あわい」に位置するものこそ、面白さがつまっているからです。となれば、この際限ない広がり近代の輸出漆器の特徴といえるでしょう。本漆仕上げかどうかで作品を絞ることはやめ、その豊かさ、ダイナミズムを提示すべく、連動する木工芸もあわせてご紹介することにしました。人、モノ、技法が入り乱れる近代の漆器ならではの「わからないさ」を、みなさまにも面白がっていただけたら幸いです。

とはいえ、漆という素材のもつ魅力には、どうにも抗いがたいものがあります。今回の展示に際して、様々な産地で調査を行い、横浜との共通性や相違点を探してきました。産地に行き、漆器を作る方、販売する方にお話を伺うと、皆さんが心から漆という素材や制作に愛着と誇りを持っていることがわかります。その熱い想いにノックアウトされ、使ってみないと漆器の良さはわからない！とつい手が伸びます。ふと気が付けば、飯碗は山中、汁碗と箸は輪島、皿は高松、小鉢は会津というように、食卓が漆器で満ちていきました。

各地での漆器や、漆器に関わる方々との出会いは、この展覧会で漆器の魅力、面白さを感じてもらいたいという原動力になりました。そんな中、年明け早々に能登で興った震災。輪島の調査でお世話になった方々、確かに根付いていた漆文化のことを思うと、胸が塞がれる気持ちになりました。この展覧会では輪島の漆器について詳しい説明はできませんでしたが、もっと、漆や漆器、産地のことを伝えたかったという心残りもあります。この展覧会がきっかけとなって、皆さんにその素晴らしさに気付いていただければ嬉しいです。そして、この展覧会が、復興や漆文化にわずかながらでも貢献できれば幸いです。

(施主S)



編集発行 神奈川県立歴史博物館
神奈川県横浜市中区南仲通5-60
発行日 令和6年4月27日第1版
田嶋 TAKI-JAPAN
© 神奈川県立歴史博物館 2024

私は大学一年から美術史をやってきて、工芸の展覧会を多く見てきたつもりでしたが、本展に関わり、初めて目にするものばかりと出会いました。撮影では、蒔絵と貝の色が同時に出来ない照明の難しさを知り、4人がかりで持ち上げる大きな柵を何度も運んだ日もありました。芝山細工修復作業の撮影では、まさに「牛の骨」を板状に切り出し、そこから文様を切りぬく糸鋸と手つき、葉脈を刻む彫刻刀に伝わる素材の固さを覚えていきます。鳥の羽一筋が、いかに繊細で手間がかかるのか気づかされました。そして、展示で見てもわからないであろう、扉を開けた中の装飾、柵が回転する驚き。それらを体験できたことが、有難く楽しい経験でした。

(スーパースプロ)

■今回は撮影者・記録者としてはなかなか難儀でした。形が複雑！大きい！かと思えば細かい、小さい！良い塩梅かなと思うくらいにライティングをする部分的にギラギラ光る。そこをどうにかしたら別の場所が過剰に光り、さらにどうにかしたら質感や立体感が弱まる。後ろには担当者や所蔵者、デザイナーのキラキラした目……。こう書くど地獄のようですが、それだけではありません。こういう光がこの子には合うのか、こうするとこう光るのか、余分な光を切ればもっとシャープに出るなあなど、おもしろく勉強になることも多くありました。あくまで主役は実物ですが、今見てくれる方々、そして未来の方にも何かしら役に立つ画像になれば嬉しいです。

(フォトグラファーA)

■今回のチラシは、いつも以上にパワフル！さらに本番の展示室もより派手ににぎやかに、かっこよ

く！芝山に負けるな！寄木に勝つぞ！デザイナーとして、色々な場所に、作品やレタリングを切って貼って、賑やかにして参りますぞ！

(デザイナー)

■特設サイトでは展示とはまた違った側面をお届けできたいと思います。担当者の嘆きはこちらにたっぷりあります。(WebデザイナーM)

■当館の公式Instagramを始めました！本展の情報も投稿しますのでフォローしてください。

ただ嬉しすぎです。今回の広報は、馬車道駅や小田原駅のサイネージ、バス「あかいくつ」号のサイネージなどなど、新しい仕掛けも満載です。広報してるの見たよ！という方、心より御礼申し上げます。見るまでもなく来た！という熱心な方、博物館を支えてくださり本当にありがとうございます！展示、ぜひお楽しみください！(広報マンH)

■本展は漆器の魅力幅広い年齢層の来館者に存分に伝えたいという担当学芸員達の熱意と創意工夫が迸っており、経理担当は一抹の予算的な不安を抱えながらも、楽しくお仕事させて頂いています。特別展のエンディングは閉幕日ではなく、決算処理完了時です。関係職員の方々は引き続きよろしくお願いたします。(本展0蔵大匠)

■近代輸出漆器、と言われるとなんだか「美術」って感じですが、漆器、だと割と身近にあるものですよ(お箸とかお椀とか)。とはいえ、漆器を作るまでにどんな技巧が使われているかは中々身近じゃありません。今回は色々な漆工芸の専門家がお話・実演・体験を通して、わかりやすく漆を教えてください。イベントがもりだくさんです！ぜひ展覧会と一緒に楽しんでください(イベント担当いち号)

■近代輸出漆器はどんなもの？どんな魅力があるのか、お伝えするイベントが盛りだくさんです！特に寄木細工は、緻密で高度な技術で作られていることを知り、職人さんたちの技術力に感動です。伝統的な模様から現代的なデザインまで様々なバリエーションが楽しめるのが魅力だとイベントを担当して感じました。お子様から大人までこの機会に作品たちの魅力を存分に味わってください！私たちもイベント&展覧会を楽しみますよ(イベント担当)

○本展の内容は、諸般の事情により、予告なく、変更となる場合がございます。悪しからず、ご了解ください。